

「中尾歌舞伎春季定期公演」を開催します

「令和7年度 中尾歌舞伎春季定期公演」を次の日程で催します。
当日、会場での観覧は事前予約制により人数が制限されます。
稽古の取材方、公演開催について地域への周知にご協力をお願いいたします。

- 1 **公演日時** 令和7年4月29日(火・祝)
開場：午後0時30分. / 開演：午後1時30分
- 2 **公演会場** 「中尾座」(伊那市長谷中尾363番地5)
- 3 **演 目** さぶろくさいがいはんせい「三六災害半世紀」 約60分
- 4 **観覧申込** 電話または専用予約フォームによる事前予約制(先着100人)
- 5 **受付時間** 電話は午前9時から午後5時
*月曜日から金曜日のみ(土日除く)
- 6 **申込期間** 令和7年4月3日(木)から令和7年4月16日(水)
*定員になり次第受付終了、中尾座で観覧できない方は
①伊那公民館、道の駅南アルプスむら長谷 のパブリックビューング
②伊那ケーブルテレビジョン(株)様による YouTube 配信、生放送
でご覧ください。
- 7 **稽古日程** 毎週木曜日の午後6時30分から午後8時頃まで行っています。
- 8 **稽古場所** 「中尾座」(伊那市長谷中尾363番地5)
- 9 **問い合わせ** 信州伊那中尾歌舞伎後援会事務局(長谷公民館内)
電話：0265-98-2009
- 10 **添付資料** ☒ 有 ☐ 無 チラシ、あらすじ

※QRコードのデータが必要でしたらお送りします。担当までご連絡ください。

中尾歌舞伎定期公演に関するお問い合わせ

2025

中尾歌舞伎

春季定期公演

事前予約制

中尾歌舞伎保存会
オリジナル演目
(平成二十四年制作)

「三六災害半世紀」

上演時間 約60分

観覧無料

(全席自由)

※一部指定あり



題材は、昭和36年(1961年)に発生した、いわゆる三六災害。

およそ半世紀前に長野県伊那谷地方を襲い甚大な被害をもたらしたが、年月の経過に伴って歴史に埋もれそうになっている豪雨災害の記憶を劇化して後世に伝え残す目的で、この新作歌舞伎が創作された。

モバイル公民館(モバCO)



日時

令和7年

4月29日 火祝日

午後0時30分 開場 / 午後1時30分 開幕

会場

長谷伝統文化等
保存伝習施設

(伊那市長谷中尾363番地5)

「中尾座」

◆観覧申込 / 事前予約制(先着100人)

予約受付後、入場整理券をお送りしますので、当日お持ちください。

◆予約・問合せ先 / 信州伊那中尾歌舞伎後援会事務局

電話: 0265-98-2009 (長谷公民館 内)

予約受付期間: 令和7年4月3日(木)～4月16日(水)

予約方法: 電話予約または予約フォームから

(定員になり次第受付を終了します)

電話受付時間: 午前9時～午後5時

※月～金曜日のみ(土日は除く)

予約フォーム
はこちらから→



◆主催 / 中尾歌舞伎保存会 ◆共催 / 信州伊那中尾歌舞伎後援会

◆後援 / 伊那市・伊那市教育委員会

感染症対策 ※会場にて感染症予防のためにおこなうスタッフの指示には必ず従ってください。

※会場内でのマスク着用は任意とします。※感染症の状況により急遽中止とさせていただきます。

※会場内での写真、ビデオ撮影はかまいませんが、ストロボ等の照明機器、および三脚の使用はご遠慮ください。なお、一脚の使用は可としますが、前後にお座りの方へのご配慮をお願いします。

中尾座で観覧することができない方は、
次の方法で観ることができます。

- ① 上演時間中は、次の2箇所でパブリックビューイングを開催!
・「伊那公民館」(伊那市中央5052番地)の講堂で大型スクリーンにて
・「道の駅南アルプスむら長谷」(伊那市長谷非持1400番地)の駐車場にて
「モバイル公民館(モバCO)」にて
- ② 伊那ケーブルテレビジョン(株)様によるYouTube配信及び、
自主放送サブチャンネル※(122ch)での生放送!
※サブチャンネルの見かた: テレビのリモコンで12chを押した後、チャンネル
ボタンの【ハ山型のマーク】を1回押します。なお、後日、再放送も予定しています。



令和7年4月29日 中尾歌舞伎春季定期公演

伊那ケーブルテレビジョン(株)様による

YouTube Live 配信

URL <https://youtube.com/live/9JmHhWqPMOY>



中尾座 P 駐車場あり

「三六災害半世紀」平成 24 年制作 中尾歌舞伎保存会オリジナル演目

題材は、昭和 36 年（1961 年）に発生した、いわゆる三六災害。およそ半世紀前に長野県伊那谷地方を襲い甚大な被害をもたらしたが、年月の経過に伴って歴史に埋もれそうになっている豪雨災害の記憶を劇化して後世に伝え残す目的で、この新作歌舞伎が創作された。

【あらすじ】

のどかな山里の村で起きた土石流災害の悲劇とそこに住む人々の人情物語。

長雨が上がったというのに川から水が引いていた。幼い兄弟・忠勝とおちよは、はしゃぎながら魚を捕っている。その時突然土石流が二人を襲い、おちよがその犠牲に・・・。

あれから 10 年、あの日と同じような長雨が続き被害も出始めた。忠勝の嫁・幸江の実家では、源蔵、軍次、おみつの兄弟が、母親代わりだった姉・幸江が嫁ぎ先の姑にいじめられていると聞き姉のことが心配になる。軍次は幸江を助けようと嵐の中を危険な峠を越えて忠勝の家を訪ねる。その時、あの恐ろしい土石流が発生した。忠勝は幸江と母・おたかを高台に逃がし妹・お千代の仇を討つと立ち向かうが、一旦は土石流に飲み込まれてしまう。そこに軍次が駆けつけ、忠勝と共に土石流を治める。

おたかは高台には逃げず、夫の位牌を取りに家に戻ったところを土石流に襲われそうになった。軍治と幸江がおたかを救い、仏壇を背負って逃げていた。おたかは、「幸江に命を助けられた、先祖の威徳に助けられた」と大事な裁縫箱を幸江に渡し感謝する。全てまろく収まり幕となる。

歌舞伎の様式を演出に盛り込んだ現代劇。場面を語る義太夫節（浄瑠璃）は用いず、七五調を基本にした群唱の「コロス」で表している。水神は広島県三次市に伝わる神楽の「大蛇」を譲り受け、土石流に見立てた「泥の大蛇」として使用する中尾歌舞伎保存会が平成 24 年（2012 年）に制作した初のオリジナル演目。

【新作に至るまでのご協力】

原作脚本を土石流対策に取り組む国土交通省天竜川上流河川事務所（駒ヶ根市）の元事務所長、草野愼一さん（現在は国土交通省水管理・国土保全局砂防部長）が担当。物語を歌舞伎化するために日本芸術文化振興会（国立劇場）の顧問を務める織田紘二さんが監修して台本を製作、義太夫節（浄瑠璃）の代わりに用いた群唱の「コロス」は、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されている竹本葵太夫さんに語りの指導をいただき、新しい演目の作品化が実現した。